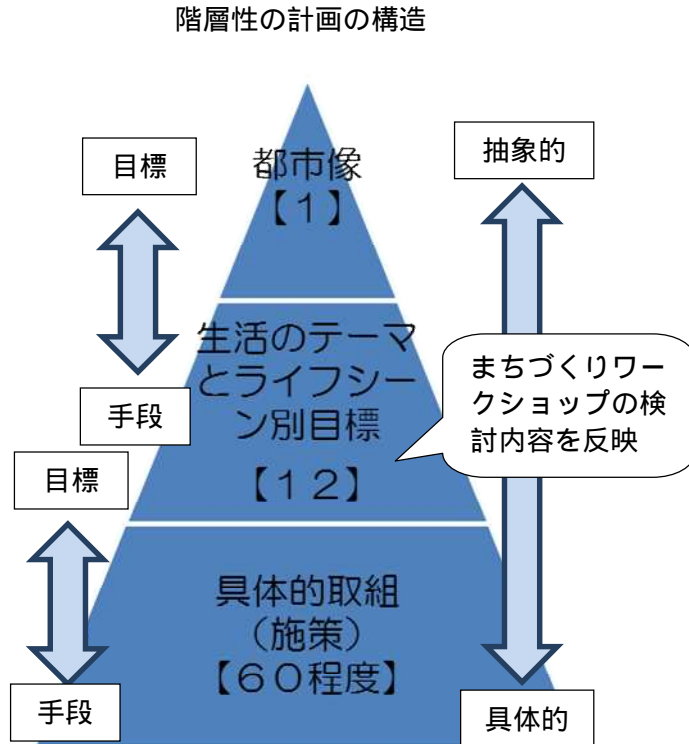


川西まちづくりワークショップ・第1回(平成23年8月27日)のまとめ(案)

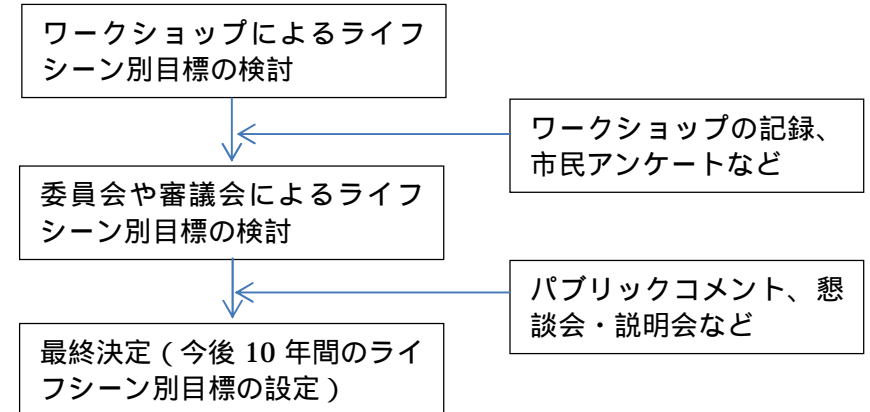
総合計画の構造とライフシーン別目標

- 総合計画の構造は概ね下図に示すとおりであり、都市像を実現する手段として12のライフシーンの目標があり、ライフシーンの目標を実現する手段として60程の施策があります。
- 階層が上がると数が少なくなり、下の階層のいくつかの内容をくくった新たに表現になります。このため、上の階層ほど抽象的な内容になり、下の階層へ行くほど具体的な内容になります。



ライフシーン別目標の検討手順

- 一般的にライフシーンの目標は、極端に言えば市民の数だけあります。
- しかし、個人的または特殊な事情を一旦横に置いて、多くの人が共有できるものに絞り込んでいくと、ライフシーンの目標は収束すると考えられます。
- 前回のワークショップにおいて、皆さんに検討していただいた目標(個人的で特殊な目標はありませんでしたが)を、なるべく多くの人が共有できるものとなるよう、次ページ以降のように再構築してみました。
- 今後、委員会や審議会の検討を経て、新たな総合計画に掲げる目標を決めていきます。次ページ以降の目標の案は、そのたたき台となるものであり、仮のものです。ワークショップの記録、アンケート結果などを踏まえた今後の審議の中で修正されていきます。



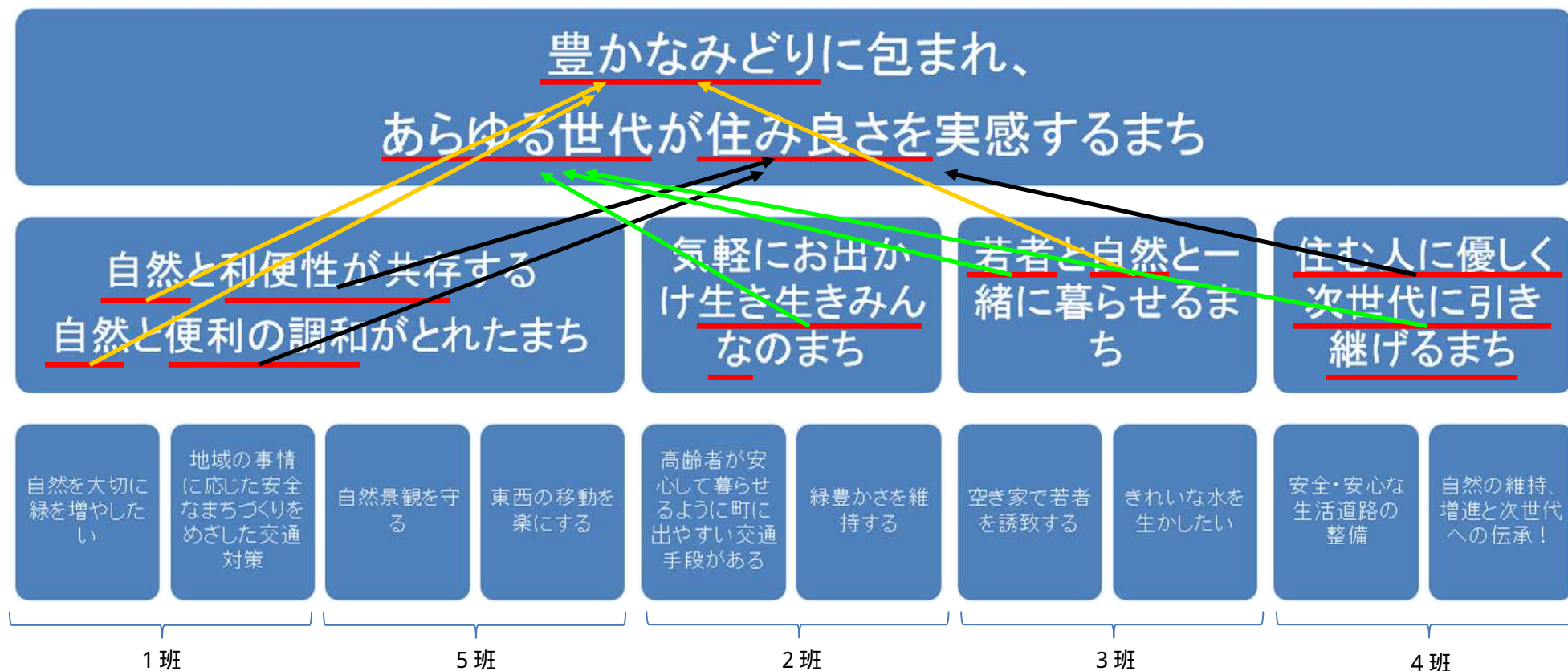
『住む』

【ワークショップ意見の特徴】

- 全ての班の「将来ありたい姿（重点）」に共通する項目は「豊かな自然」です。
- その他、あらゆる世代が住み良いまちであるための交通条件の改善や、人口の年齢バランスを保つための空き家を活用した若年層の定住促進が重点的なテーマとして捉えられています。

【ライフシーン『住む』の目標】

川西市は充実した社会基盤と都市機能の集積が豊かな自然と融合し、利便性が高く潤いのある生活空間となっています。この豊かなまちの環境をさらに高めるため、まちの維持管理（保全・更新と活用）を進め、あらゆる世代が住み良さを実感するまちをめざします。



『買う』

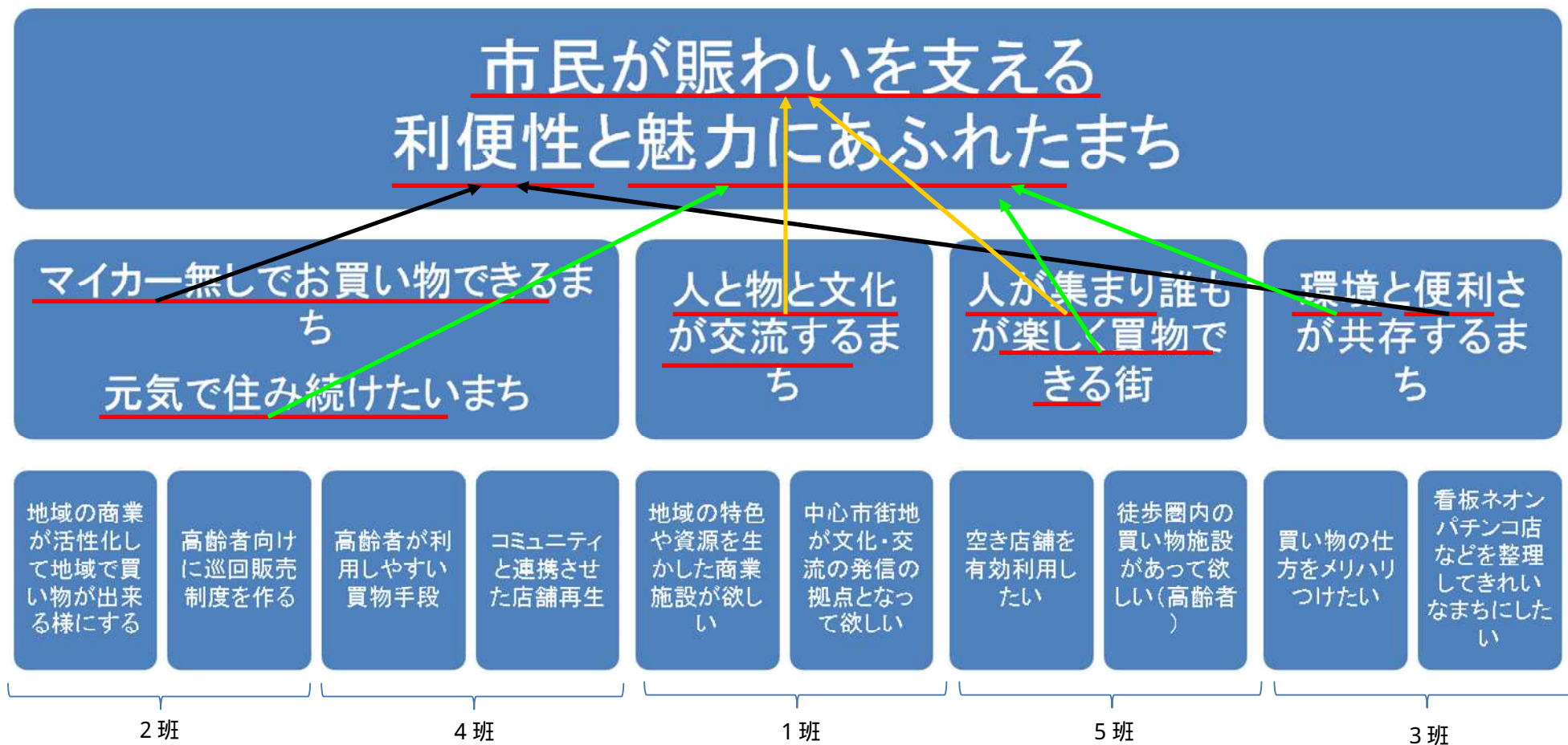
【ワークショップ意見の特徴】

- 高齢社会の到来を見越し、高齢者にもやさしい買い物環境を整えることが望めます。
- 中心市街地とその他のエリアといった商業の配置と役割分担により、利便性と魅力を備えた地域の商業を市民が支えていくことが重要です。

【ライフシーン『住む』の目標】

川西市の中心市街地には商業や業務、行政機能が集積し、川西市の玄関口、顔と位置づけられ、人・もの・情報の拠点となっています。この環境をさらに高めるため、市内で買い物をするなど市民が商業を支えることにより、商業集積の維持とサービスの向上を促し、利便性と賑わいにあふれたまちをめざします。

3



『育む』

【ワークショップ意見の特徴】

- 少子高齢時代における子供を育てる環境の充実が課題となっており、地域の安全やコミュニティの活用が期待されています。
- 医療体制の充実・維持、健康の維持を、市民と行政の協働のもとに実現します。

【ライフシーン『住む』の目標】

少子化と高齢化の影響により地域の子育て環境や健康管理の環境が変化しつつあります。今後とも安心して子育てができ、その環境が新たなファミリー層の移住を促し、年齢的にバランスの取れた地域社会を維持するためには、子供にとって安全な環境を整え、子育てを行うことが望まれます。また、高齢社会における市民の健康を維持するためには、医療体制の維持と健康管理が求められます。地域と行政の連携により、命を育むまちをめざします

4

